

第3回ひとづくり部会会議要旨

- 1 日 時 令和3年3月1日（月） 18時00分～20時00分
- 2 場 所 市役所本庁舎 803 会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 概 要
 - ・分野別計画（各論）について
 - ・総合計画の策定スケジュールについて
 - ・その他（意見交換会の結果と計画への反映等及び市民アンケート調査結果）
- 5 審議会の内容
 - (1) 開 会
 - (2) 議 題
 - ① 分野別計画（各論）について
 - ② 総合計画の策定スケジュールについて
 - ③ その他
 - (3) 閉 会

【主な意見】

（市民アンケート調査）

≪部会長≫

- ・回答者は中高年が多く若い人が少ないのが気になる。住みよいと答えているのも高岡に長く住んでいる中高年の人たちではないか。年齢区分で均等なアンケートとなっているのか。

[事務局]

- ・アンケートの対象者は、本市の人口の年齢構成比を考慮して任意抽出している。また、回答いただいた方の年齢構成比も、本市の人口の年齢構成比と概ね同じ割合となっている。
（参考資料 No.2-2 P4 で説明）

（8-④地域の子育て力の応援）

≪部会長≫

- ・県は、県西部の拠点である高岡児童相談所を建て替えるとされている。児童虐待の背景には、子どもの面前でのDVによる心理的虐待の増加があり、DVの窓口である高岡市男女平等推進センターと児童相談所の連携が県の会議では話題になっている。

≪委員≫

- ・虐待防止は、この計画にも盛り込まれており、その方向で取り組んでいるのではないかと。

《委員》

- ・虐待などの対象となる家庭には、防止のための取り組みを知らせないといけない。オンラインでも行っている。

《部会長》

- ・単に ICT に置き換えるだけでなく、仕組み自体も変えていく必要がある。対面とオンラインのハイブリッドで良い点を取り入れることも大事である。

(8-①教育・保育の一体的提供の推進とサービスの充実)

《委員》

- ・病児保育について、企業の中に対応する施設や機能を作ることができたらと考えるがどうか。親にとっての一番は、近くにそうした子どもがいることを嬉しいと感じると思う。特に大企業には協力を求めたら良い。企業の中に保育士資格や看護師資格を持っている人がいれば、企業で働く人たちにプラスになると思う。

《委員》

- ・オフィスパークの東洋通信工業は、保育の施設を持っていて、まわりの企業からも受け入れている。

《委員》

- ・通常の保育となると難しいが、病児保育や緊急の保育に協力してもらえるものなら企業に力を貸してもらえると良い。

[事務局]

- ・戸出のオフィスパークには、複数の会社がありそこで働く方のお子さんを預かる企業内保育を実施している。まわりの会社の協力を受けながら国と直接やり取りをする仕組みとなっており、公立とも私立とも異なる。受け入れ体制の問題はあるが、そのような仕組みに理解を得られる会社があればと考える。

《部会長》

- ・済生会高岡病院もそのような体制となっていたはずである。

《委員》

- ・そのような情報を各方面に提供してほしい。

(9-①確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育の推進

～9-③教育効果を高める教育環境の充実)

《委員》

- ・国では GIGA スクール構想を進めており、高岡市においては一人一台の学習専用端末や大型ディスプレイ、Wi-Fi の環境も整えられるなど GIGA スクール構想の実現に向けて順調に準備してもらっていると思っている。ただ、現場の感覚では、教師がまだ追いついていないと感じる。教員向けの研修をしているが、教員の技能を高めることが課題である。総合計画はそうした実態を反映した方向性となっており、教員一人一人の力を上げていかないといけないと思っている。

《部会長》

- ・富山大学では、そうした教員向けの支援事業も検討されていると聞いている。

《委員》

- ・一つには、日本語が話せないような外国人の子どもたちについて、子ども同士のコミュニケーションツールとして、外国語の翻訳ソフトの導入を検討できないか。子どもたちはソフトをうまく使いこなせるし、セキュリティの関係が悩ましいが、ソフトは一回入れれば大丈夫である。

二つ目には、子どもたちは端末をもらったが家に置いている時間が長いと聞いている。端末の有効活用についてこれから取り組みを進めていければと思う。

三つ目には、教員が多忙を解消するための方策としての校務の ICT 化は素晴らしいと感じており、進められていくと良い。

《委員》

- ・私は子どもたちにピアノを教えている。市中心部の生徒が多いが、伏木や戸出に行くと中心部と違いがあることを感じる。今、音楽教室で元気があると感じるのは木津小学校区。若い親がいる地域だからか、好奇心を持っており活気がある。伏木には素敵なお寺などがあるが、アピールがまだ足りないと感じる。また、伏木で若い人はどこで遊ぶのか、若い人にはあまり魅力がないのではないか。これは伏木で住んだり働いたりする人たちにはかわいそうに感じる。

瑞龍寺のライトアップは見たことがあってももう一回見てみたいと思う。高岡にはそうした素敵などところがあるし、もっと人が楽しめることができないかと思っている。

《部会長》

- ・地域の元気が、子どもたちの元気のバックグラウンドになっている。地域の元気と子ども

たちの元気は、一体的な課題である。

《委員》

- ・学校にあるピアノは統廃合のときにどうするのか、外国ならピアノを町や駅で使うなどある。瑞龍寺でのコンサートなどもよいと思うし、ピアノの活用の方法があればよい。

《委員》

- ・牧野地区は小学校に入学する子どもも多く、団地も造成されるので、これから子どもはまだ増えるのではと思う。牧野地区の子どもは川を越えて学校へいくことはできず、牧野小学校はすでに増築済みのため増築する場所もない。早く小中一貫校になっていけば、牧野の問題も解決されていくのではないか。

[事務局]

- ・牧野地区と野村地区は、人口が増加しており、一定程度整備はしていきたいと考えている。しかし、市全体を見ると10年、20年先を見たときに、日本全国で人口が減少し、校舎を増築しても使わないことになってくる。これまで学校再編より耐震を優先してきたことについて無駄な投資と言われることもあるが、目の前の子どもたちの安全安心のために必要なことは手を打っていきたいと考えている。
- ・一人一台のタブレットについて、先日野村小学校で給食を一緒に食べた際、6年生が発表をした。自分たちで動画を作ったりイラストを描いたり、写真を撮って楽しんでいるなどの内容だ。これらはネットにつながなくてもアプリを入れれば使うことができるもので、先生が十分指導しなくても、安全に使える環境であればどんどん子どもたちに使ってほしいと考えている。そのため、高岡市は他市に先んじて家へ持ち帰ってもよいことにした。ルールとセキュリティをしっかり守ったうえで使うことで子どもたちは先へ行く。大人が足を引っ張ってはいけないと思っている。
- ・伏木の魅力発信の話は、コロナの終息後に向けてみなさんと協力しながら取り組んでいきたい。

《アドバイザー》

- ・小学校の先生がデジタル技術に追い付いていない問題について、先生方と接触することも多いが、かなり遅れていると感じており、とても心配である。計画にも書いてはあるが、もっと踏み込んでサポートしないと進まないという印象がある。意見交換会の意見で先生方が教育されていないという意見もあり、そのとおりだと思う。先生方も決して後ろ向きではなく、先生の中にもいろんな意見があるのは確かである。また、市民アンケートの中で高岡市がデジタル化を進めていることについて40代までと50代からでかなり変わってくる。50代からになるとコミュニケーションが心配だという意見がある。デジタルコミュニ

ケーションが浸透していない。デジタルへ変わっていくことは決まっているので、教育の現場もついていかないと先生方が子どもたちより遅れていくことになる。この計画の書き方は、感覚的にはのんびりしていると思う。

《部会長》

- ・もう少し強めの表現を、例えば“強力にサポートを推進”などという書き方が良いのではないかということである。

[事務局]

- ・ICT 支援員を来年度配置するところであり、教育委員会にも ICT 専門教員を配置し ICT を活用した教育に向けた職員を育て次の世代につなげるための準備をしている。端末を購入した企業からも講習会を行うという提案をいただいている。

《アドバイザー》

- ・デジタル化では既存の教科書と違って、一人一人に合わせた教材を自由に提供できるようになる。また一人一人の興味関心に合わせて教育を行うことができる。デジタルで様々なことが変わるが、デジタル化がもたらす変化を理解できる人を作る必要がある。技術をサポートするのではなく、その変化の意味を理解できるようにすることが必要である。

《部会長》

- ・個別最適化という教育の新しい考え方とデジタルのもたらす変化の意味を理解するということであった。

[事務局]

- ・機械を使うことが大事なのではなく、自ら考え解決する、またチームで考え解決していくという 21 世紀型の学びを進めたいと思っている。個別最適化ということもあるが、ICT の環境も駆使しながら、どう使えばよいかという学びを展開していきたい。ご指摘のとおり ICT の技術や環境をしっかりと理解している者がいないということは認識しており、アドバイザーのような支援者がいることで前に進める。アドバイスをいただきながらということが基本となってくる。

(11-①生涯スポーツ活動の充実)

《委員》

- ・パラリンピックもあるが、計画の中で障がい者スポーツについて触れられていないのではないか。

[事務局]

- ・大事な観点だと思っている。県ではオリンピックは教育委員会、パラリンピックは厚生部だが、市としてはいずれも教育委員会で担っているところであり、障がい者スポーツも含まれるものと認識している。

《部会長》

- ・いずれもスポーツであり、その境目はなくなっていると思う。

[事務局]

- ・施策の基本方針では障がい者スポーツという言い方はしていないが、“市民の誰もが”、という表現をしている。福祉と教育で連携しており、具体的な言葉ではないが、障がい者スポーツの考え方も含んでいると捉えている。

(その他)

《委員》

- ・今年の大雪で子どもたちが遊ぶところがないということがあった。近年は雪が少ないので雪がとけた公園で遊べた。スポーツ施設など調べたが、有料である。大雪のときだけでも子供たちが使いやすいようになればよいと思う。

《部会長》

- ・昔は雪の中で遊んでいたが今はだんだんそうではなくなってきているのか。

[事務局]

- ・例えば今コロナで学校が臨時休業のときでも、学校で子どもを預かったりする。大雪の際に小学校の体育館を開放することはできる。ただ個人的にはぜひ雪遊びをしてほしい。雪国では足裏に雪の感覚があるが、都会の人にはそうした感覚が育たない。せっかく雪があるのだから、雪を活用した体験を広げられるようにしたい。体育館活用は方法として考えることができるが、四季を通じて子供たちを育てていくということをしていきたい。

《委員》

- ・庭のある一軒家であればそれでよいが、アパート住まいの場合は、遊ぶ場所がない。近くの公園は雪捨て場になっていて使えない状況があった。

[事務局]

- ・そのようなときには学校を開放することも考えられるし、グラウンドも開放対象として確

保できると考えている。

《委員》

- ・学校にはグランドピアノがあり、調律師は学校のピアノも調律しているが、状態は悪い。メイドジャパンはとても良いものであるが、それをリニューアルしてストリートでピアノを演奏できるようにならないか。スポーツイベントがコラボするとなお良いのではないかと思う。

[事務局]

- ・学校の備品はすべて登録しており大事に使っている。学校がなくなっても別の学校や公共施設で使っていくことで大事にしていくものである。音楽は素晴らしい世界を持っているため、楽器も有効に活用していきたいと考えている。

《アドバイザー》

- ・ICTの話は総合計画には網羅的に入っているので今くらいの内容でよいのではと思う。より細かな内容は各個別計画の中で書いていけば良い。様々な団体との連携や協力など、共創のまちづくりの枠組みをもっと活用する形で連携を図っていければと思う。

《部会長》

- ・獅子舞のネットワークや牧野地区の外国人支援など、共創のまちづくり事業の枠をもっと広げていくということが必要である。

(10-①ライフステージに応じた生涯学習の振興)

《アドバイザー》

- ・これからICT、AI、ビッグデータなど社会が変わっていく中に30代から50代の世代が取り残されるのではないかと心配している。校務にICTを取り入れることは素晴らしいと意見があったが私も同意する。取り残されるということが懸念であり、リカレント教育という視点が欠けていると思う。

[事務局]

- ・計画では全編を通じてデジタルを組み込んでおり、産業などそれぞれの施策に記載している。また、安全・安心分野では「高度情報化の推進」の施策があり、デジタルデバイド（情報格差）についても盛り込んでいる。

《アドバイザー》

- ・情報格差とは違う。データサイエンスやAI、ICT教育などリカレント教育に関することで

ある。

[事務局]

- ・現在、教育将来構想検討会議を行っているが、その中でリカレント教育を公民館で取り組もうとしている。これまで大学がやっていたリカレントの役割を、身近な公民館に位置づけることを考えている。公民館の ICT 環境を整えて、公民館でオンライン講座を受講できるようにするなど考えているところ。ただ、乗り切れない人も出てくると考えており、支えていくのは行政の役割だと思っている。

《アドバイザー》

- ・公民館の活用はとても良い。教材は世界中にあるが一人での勉強はやはり大変、公民館に行けば同じスキルの人がいたりすると安心だと思う。

《部会長》

- ・リカレント教育に関する記載は確かに少ない。産業の活性化などにも関連してくるし、子どもたちの視野も変わってくる。具体化したほうがいいのではないかと思われる。

(総括)

《部会長》

- ・今後は部会長と事務局で調整し、ご意見をできる限り反映しながら総括部会で素案としてまとめていきたい。